

社会階層と健康 (1)

—若年層における非正規雇用と健康の関連—

東北学院大学 神林博史

1. 目的

非正規雇用が社会的な関心を集めるようになって久しい。低賃金、制度的保護の不十分さ、不安定雇用など、非正規雇用に伴う問題は数多く、しかも非正規雇用労働者の比率は現在もなお上昇を続けている。こうした流れを受けて、「社会階層と健康」研究の領域では非正規雇用が健康にどのような影響を与えるのかが注目されるようになっており、この問題に関する文献は2000年以降、世界的に増加している。先行研究においては、非正規雇用が様々な健康アウトカムに対して悪影響を及ぼすことが明らかになっている一方で、影響が見られなかったとする研究も少なからず存在し、非正規雇用の影響は必ずしも明確ではない部分がある(井上他 2011)。

本研究の目的は、現代日本社会において非正規雇用が人々の健康にどのような影響を与えるのかを、若年層労働者のデータを用いて検討することである。分析にあたっては、非正規雇用とジェンダーの関連に特に注目する。なぜなら、非正規雇用は男性稼ぎ手モデルの下で既婚女性が家計の補助として働くことを想定した雇用形態であり、それゆえ、男性非正規雇用労働者は家族形成や社会規範などの点から女性より厳しい状況に置かれており、そのことが健康(特に精神面の)に影響を与えることが予想されるからである。

2. 方法

使用するデータは、(1)「まちと家族の健康調査」(J-SHINE データ ; 2010年)、(2)「仕事と健康に関する福岡市民調査」(2012年)と「仕事と健康に関する仙台市民調査」(2012年)の合併データ、の2種である。前者は東京23区とその近郊の4市区の居住者を対象とするCAPI調査(N=4381)、後者は地方中核都市における若年層労働者(25歳から39歳)を対象とする郵送調査である(N=2694)。

3. 結果

基本属性、従業上の地位以外のSES、労働時間・労働条件等をコントロールしても、非正規雇用は主観的健康および精神的健康に対して負の効果を持つことが明らかになった。また、一部の項目で男性ダミーと非正規の間に交互作用効果が見られた。ただし、2つのデータの間で非正規雇用の効果が一貫しない部分があり、効果自体もそれほど強いわけではない。

4. 結論

非正規雇用は健康を低める効果を持つことが明らかになった。しかし、今回の分析では非正規雇用が健康に影響するメカニズムは十分に解明されていない。非正規雇用に伴う雇用・労働条件の悪さ以外に、「非正規である」という認識自体がある種のスティグマとして健康に影響している可能性があり(特に男性)、こうしたメカニズムについて今後さらに精査する必要がある。

参考文献

井上まり子・他.2011.「非正規雇用者の健康に関する文献調査」『産業衛生学雑誌』53:117-139.

【付記】本研究は平成21~25年度文部科学省科学研究費新学術領域研究「現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合」(代表：川上憲人東京大学大学院医学系研究科教授)の研究結果の一部である。J-SHINEデータ使用については、2012「社会階層と健康」研究班データ管理委員会の許可を得た。